

パソコン教室の窓から(74)

NPO 法人コミュニティ NET ひたち(Cnet)久保裕

お盆の夏休みに読んだ本から

今 8 月に読んだ三冊の本について、その読後感と気付かされた事を書いてみる。

- ① 『**論語と算盤**』 渋沢栄一著 守屋敦現代語訳 ちくま新書(Kindle 版)
- ② 『**Chat GPT の文系 AI 人材になる**』 野口竜司著 東洋経済新報社(Kindle 版)
- ③ 『**親鸞 『歎異抄』を手がかりとして**』 伊藤益著 春秋社

①と②は電子書籍 Kindle 版で、③は笠間市の西念寺の夏期講座で著者筑波大学名誉教授の講演を聞いたとき、同寺で販売していた本を購入して読んだ。

① **渋沢栄一著『論語と算盤』**・・・新 1 万円札の発行に際して

『論語』は中国孔子の言行を弟子たちが書物にした儒教の経典。渋沢栄一は生涯この本を学び続けて、人生の指針としている。一方『算盤』は経済活動の比喻であり、経済活動で欠かせない現代で言えばコンピュータであり、『パソコン』である。渋沢栄一は、この 7 月から新しい 1 万札の顔になっている。生涯に 500 社もの会社を設立し、日本の経済の礎を築いた。近代資本主義の父とも呼ばれているが、財閥を作ったりせず、その生涯は、日本赤十字社の設立、一橋大学や早稲田大などの設立に寄与した『公益追及者』であった。

② **野口竜司著『Chat GPT の文系 AI 人材になる』**・・・第 4 次産業革命時代を迎えて

日本語で Chat は“会話”、GPT は“人工生成言語”のこと。Chat GPT は米国 Open AI 社が開発した、会話型人工生成言語であり、巨大な情報のデータベースを有して、人間のよ様な自然な文章を生成してくれる。GPT には、英語の略語として、次の 2 つがある。

GPT=Generative Pre-trained Transformer(人口生成言語)

GPT=General Purpose Technology(知的生産革命の技術、第 4 次の AI ブーム)

後者の GPT は、人工知能が人間の道徳の領域を突破する、技術的特異点(Singularity)といわれている。18 世紀にイギリスで蒸気機関が開発された第 1 次産業革命から、電力による第 2 次産業革命、コンピュータの実用化による第 3 次産業革命を経て、現在は人工知能 AI による第 4 次産業革命の時代に入った。新しい革命の GPT 時代を生き抜こうという。

③ 『**親鸞 『歎異抄』を手がかりとして**』

哲学者であり思想家の著者が、『歎異抄』を読み解いて浄土真宗の開祖親鸞の真の教えを解説する 324 頁の労作である。宗教(信仰心)について尊厳をもって解説している。他力本願や悪人正機説の真の意味を解説する。専門用語が出てくるので、読み始めは難解なところがあったが、読み進むと日常語による丁寧な説明と多くの事例を引用している物語が書かれていて、最後まで読み切ることができた。

親鸞が「浄土」をいかにとらえていたか、ブッダの教え仏教に基づいていることを明確に解き

ほぐしてくれている。以下に著者の主張の一部を紹介する。

ブッダの教え仏法は、「空」と「無我」の教説をその根幹にすえている。そこから三法印といわれる「諸行無常」「諸法無我」「涅槃寂靜(さとり)」へと連鎖し、整然と筋立てられている。すべての諸行・事物は無常であり変化している。すべてのものに変化のない実体(我)は無い。「無我」ということを冷静に見きわめると、事物は「空」であり、事物のあるがままが真実(「無」であるがまま)、つまり「真」と「空」を知ることが本当の智慧(さとり)である、としている。時々変わりゆく事物を「唯物論」的に認識して見ることを否定している。ブッダと生没年がほぼ同じくする西洋哲学の基礎をつくったソクラテスが同様なことを説いている。

「浄土」は、仏教以前から説かれている人間世界の六道(天、人、修羅、畜生、餓鬼、地獄)の輪廻転生から離れて、導かれていく「さとり」の世界「浄土界」として説いている。「浄土」とは、すべての事物を清める浄化作用そのものの世界であること。すなわち「浄土」は実態有の世界ではなく、「空」「無」の世界で、純然たるはたらき純粹浄化作用にほかならない、と説いている。「いま、ここに」において、わたくしどもを浄め、真の幸福をもたらす、はたらきとしてあるもの、というのが親鸞の浄土論の根幹をなしていると、本書の第7章浄土論で 30 頁を要して説いておられる。

『歎異抄』は、親鸞の直弟子の唯円が、親鸞示寂後に親鸞の教えと異なる解釈が流布されたことを歎き書かれたものだ。そこでいくつかの親鸞語録を上げて、その異なる解釈への回答を書いている。それは、『教行信証』など親鸞の著書には書かれいない「悪人正機説」あるいは、浄土論の解釈の矛盾、人間の「宿業」と「自由」の問題などを提起している。われわれのような凡人には、『歎異抄』を読んだだけでは、到底理解できない難解なものだ。

『歎異抄』は、悪と善、苦と楽、生老病死など真の人間の本質を考える本だ。